

〈月1回〉

東日本大震災・原発事故から15年

それでも日本に 原発は必要か



ジャーナリスト、作家
青木美希

帰還困難区域への道のり

福島県浪江町津島地区に、4月29日に行つてきました。

住民の柴田明範さんが車を運転し、助手席に私後部座席に妻の明美さん。車は山間の道を走っています。道の両側は生い茂った草でぼつぼつです。

「ここはみんな田んぼだったんですよ」

柴田さんが私に話しかけます。

草むらをよく見ると、田んぼの畦のあとがわずかに見えました。

柴田さんは、右側の脇道の入り口で車を止めました。脇道は坂の上に伸びていますが、入り口には太い銀色のパイプ2本

〈4〉奪われた暮らしと未来

福島・浪江町津島地区を訪ねて

帰還困難区域です。自分の土地、家に入るため事前許可をとつたうえ、

ウリ、ブルーベリーを自分でとってきて食べてました。手にいっぱい持ってきて」

柴田さんの自宅に着きました。柴田さんは車から降り、庭の木にピンクのテープを巻き付けます。

「除染で切られないように、というしるしです」

除染は、放射性物質に汚染された土や



原発事故で避難している柴田さん。まもなく解体される自宅を訪れた2026年4月29日、福島県浪江町津島地区

国が設けたバリケードをよけて入らなければならぬ。

日本はいまも原子力緊急事態宣言発令中で、原発から北西の7市町村に避難指示が出ています。

指示区域外からの避難者を含め、いまも数万人が避難をしています。

暮らしの記憶と 変わらない現実

脇道の荒れ地を抜けていきます。もともと柴田さん夫婦がブルーベリーやリンドウ、キュウリ、サツマイモなどを栽培していた畑です。

「うちの子たち、おやつ代わりにトマトやキュウリ」

草木を取り除く作業です。大事な木を切られない目印のことでした。何の木ですか、と尋ねると明美さんが答えました。

「ヤマボウシです。こうしてときどき眺めに來るから、切らないで」と私が持ってきたサーベ

イメータ(放射線測定機)はアラームを鳴らし続けています。放射線量は1・26マイクロシーベルト

毎時。事故前の30倍でした。除染しても元に戻りません。浪江町津島の除染済みの地域も測定して

きました。0・4マイクロシーベルト毎時ありました。除染しても事故

前の10倍までには下がらないのです。

更地となり、奪われる土地の歴史

家の中に入ると、リビングで黒い壁掛け時計が2時47分ごろで止まり、月めくりカレンダーは2011年3月のままでした。

「網戸にホタルがきて、光っていたんだよ」

リビングの中央には、炭を入れるこたつがありました。

「一口あったかい。あの暖かさは再現できない。うちの敷地内に炭焼

き小屋があつて、親父が炭をつくって鍛冶屋さんに売つてもいたんです。山があるので循環です。しいたけ、なめこもうちの桜やナラを切つて、原木にしていました。しいたけも買ったことがない」

柴田さんは言います。

「うちらはここにいたほうが何倍も幸せだった。少しずつブルーベリー農園を広げていたところで、今頃はブルーベリー農園をやっているはずだった」

明美さんも言います。「避難して、帰れなくなつちやつて、ガクッと。もう、どん底」

いま建物の解体が進められていきます。解体されれば更地、その後は草ぼうぼうとなつていくところもあります。その土地の歴史、あつたはずの未来を原発事故が奪つたのです。

そしていままた日本は、次の事故に向かつているように見えます。

私は、柴田さんの家の姿を動画におさめました。YouTube「あおタイムス」でご覧になれます。

あおきみき 札幌生まれ。新聞社3社に勤務。大震災直後から取材を続け、新聞協会賞、脱原発文字大賞などを受賞。日本ペンクラブ言論表現委員会副委員長。『それでも日本に原発は必要なのか?』(文春新書)など著書、共著多数

◆YouTube「あおタイムス」で、原発やその周辺の今を発信

ホットライン

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp へ

兵庫

小組で
スタンディング

【川西支部 岡崎喜久子】5月6日、おしゃべり小組全員で小組終了後「戦争NO 九条守れ」のスタンディングにとりくみました。



車の多い三差路でアピール▲兵庫

ムの後、憲法前文と九条を読み合わせ、いざ、近くのコンビニや車の多い三差路で自前のプラカードや寄せ集めのカードを持ち、川西9条の会で作成されたティッシュを配りながらアピールしました。高校生たちが「戦争反対やで」と通り過ぎました。

初めてスタンディングした仲間も、久しぶりの先輩も、小組初の良い経験となりました。

長野

班のみんなでお花見へ

【上田支部塩田班 大石さと子】4月9日、班の6人でお花見に行きました。1人は仕事で、もう1人はネギの苗植えて参



お花見も“写メ”で報告▲長野

沖縄

サンシン小組
待ち遠しい

【那覇支部 神山幸子】月1回、第3金曜日の2時〜4時まで、新婦人の事務所でサンシンを弾いています。教えるのは系

満支部の会員です。夫婦で参加する人、県外からの移住者、年齢もさまざま、おしゃべりに花が



楽しみに弾いています▲沖縄

咲きます。

県本部のLINEグループでお誘いのメール、

スマホで個人々々へメールします。
3月は、定番の安里屋ユンタ、童神(わらびがみ)、青い空は、などを弾きました。サンシンは新婦人の行事などでも弾きます。年金者組合から依頼されて、文化祭で弾きました。月一回のサンシン小組はとても楽しく、みんな首を長くして待っています。

通信ありがとう

〈4月〉
〈県別〉
北海道7、青森2、岩手7、秋田1、宮城8、福島9、東京38、群馬7、栃木6、茨城

10、埼玉16、千葉5、神奈川18、静岡10、愛知38、岐阜12、三重24、新潟12、石川7、長野26、滋賀3、京都55、奈良13、和歌山13、大分38、兵庫34、岡山3、広島2、鳥取4、島根5、山口1、徳島5、愛媛1、福岡12、佐賀1、長崎

3、熊本1、大分1、沖縄6
〈内容〉
県活動6、支部活動23、班活動16、俳句148、短歌91、川柳47、詩4、絵手紙7、ギヤラリー5、投稿127
合計514